

小田原市総合計画審議会（第9回）会議録

- 1 日 時 令和3年11月11日（木） 午前10時00分から正午まで
- 2 場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室
- 3 出席委員 <対面参加>
出石 稔、木村 秀昭、有賀 かおる、遠藤 郁夏、木村 元彦、
佐藤 萌々花、ジェフリー・ギャリッシュ、鈴木 榮子、信時 正人、
藤澤 恭司、別所 直哉、益田 麻衣子
<オンライン>
秋元 美里、奥 真美、崎田 恭平、関 幸子、平井 太郎、矢部 寛泰、
渡邊 清治
- 4 事務局 市長、鳥海副市長、玉木副市長、理事・企画部長、企画部副部長、企画政策課長、未来創造・デジタル化推進担当部長、総務部長、公営事業部長、市民部長、地域コミュニティ担当部長、防災部長、文化部長、福祉健康部長、子ども青少年部長、経済部長、都市部長、蛭雪部長、病院管理局長、病院再整備担当局長、上下水道局長、施設再整備公民連携担当部長、教育部長、企画政策課職員4人
- 5 傍聴者 1名（Youtubeにて同時配信）

（次 第）

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 実行計画に係る総括質疑
 - (2) その他
- 3 閉 会

1 開会

【進行：出石会長】

皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから第9回の総合計画審議会を開催いたします。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。特に今日は、遠方からも直接、何人かこちらの会場の方にお越しいただいております。また、オンラインのご出席もありがとうございます。

本日も、これまでも大変充実した意見が飛び交っておりますが、今日は総括になってまいりますので、また、充実かつ円滑な進行についてご協力をいただければありがたいというふうに思います。

本日は、丸山委員について欠席で、20 名中 19 名出席となっております。小田原市総合計画審議会規則第 5 条第 2 項の規定による 1/2 の定足数に達しておりますので、本会議は成立しております。

市側の出席については、配布された資料のとおりであります。本日は総括質疑ということで、市長、副市長にもご出席いただいております。お忙しい中、ありがとうございます。

それで議題に入ります前に、今日の進め方について、若干説明をさせていただきます。本日は総括審議となるわけですが、既に基本構想の答申は第一次答申でしておりますけれども、続いて実行計画になる第二次答申につながる、非常に重要な会議になります。最終的というか、もう 1 回ありますけどね、総括質疑は今日になります。

これまでの審議で、事務局に再検討をしていただくようなことをお願いしてありました。これらの事項について、まず、まとめていただいておりますので、事務局からこれをお示しいただきまして、まず前半戦は、これまでの経過を含めた事務局の考え方等を、さらに踏まえた議論、そして後半は、市長、副市長との意見交換を含めた、計画全体の審議というふうにさせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。そういう形で進めてまいります。では、時間も限られておりますので、全体を通して答申に盛り込みたい内容などを意識していただいて、ご発言いただければありがたいと思います。

2 議事 (1) 実行計画に係る総括質疑

【出石会長】

では、議題に入ります。(1) 実行計画の総括質疑になります。事務局から説明をお願いいたします。

【企画政策課長】

それでは、ご説明させていただきます。

本日の審議をしていただくにあたりまして、これまで実行計画についてのご審議の中でいただいたご意見の内容と、それに対する現時点での市の考え方、対応方針をまとめたものをお配りしてございます。参考資料 1 が第 4 回から第 7 回の分、参考資料 1-1 が第 8 回の審議会の分となっております。

そして、参考資料 2 でございますけれども、参考資料 1 と 1-1 にある全てのご意見のうち、市の考え方については再検討するということとなっておりますものを抽出して、主要な論点ごとに整理をさせていただいたものでございます。主要な論点といたしましては、目標値の設定、それから人口シナリオ・移住定住策、それから産業分野、それから環境・エネルギー分野、推進エンジンの 5 項目ごとに整理をさせていただきました。それぞれの項目についてのご意見の概要を記載させていただいているものが、参考資料 2 でございます。本日の前半はこちらの内容について、ご議論をいただきたいと思います。

参考資料2で主要な論点に係る意見の概要等、市の考え方についてご説明をさせていただきます。参考資料2の2ページ目をお開きください。こちらをご覧くださいますと意見が並んでおりますけれども、それぞれの意見の文頭のところに、例えば最初のところに4-01とか4-02という3桁の番号が付されていますけれども、この番号は資料1または資料1-1にあります、それぞれの意見にコード番号というものが付されておりまして、例えば4-01ですと資料1の1ページにあります4-01と4-02の番号は4-02ということで、そちらのコード番号とリンクしておりますので、必要に応じてご覧いただきたいと思います。

それでは、まず目標値の設定についてでございます。まず目標の設定の考え方につきましては、指標の意義や定義、それから目標値設定の根拠等についてのご意見がございました。これにつきましては、指標についての考え方や根拠を資料として、この審議会にもお示したところでございます。このような指標についての考え方を計画書にも何らかの形で表していきたいというように考えているところです。

また、目標の体系化についてでございます。目標を階層構造で示すべき等のご意見をいただきました。これにつきましては、総合計画の3つの目標、生活の質の向上、地域経済の好循環、豊かな環境の継承にそれぞれ目標値を置く、そして詳細施策の目標値との関連性が見えるような形でお示したいというように、考えるところでございます。

続いて、検証の考え方でございます。定性的な目標であっても、設定の根拠ですとか、成果をどのように測るのかということについて示してほしいといったご意見がございました。定性的な目標につきましては、設定の根拠を示すとともに、一部の成果が測定できるような指標を置く、あるいはそういった指標をいくつか組み合わせるというようなことも併せて検討していきたいというように考えているところでございます。

以下、事細かにご意見をそこに書かせていただいておりますけれども、個別の事項に対するご意見ということですので、ここでの説明は省略をさせていただきたいと思います。

続きまして、6ページをご覧ください。人口シナリオ・移住定住策についてのご意見でございます。移住定住に関する施策を計画体系に明示した方が良いのではないかとのご意見がございました。これにつきましては、実行計画の人口シナリオを書いた部分がございます。この部分で、移住定住増による人口増に対応する施策分を示す、あるいは推進エンジンの行政経営の詳細施策として、新たに項目立てをするとしたことにつきましては、これから検討を進めてまいりたいと考えているところです。

続きまして8ページをご覧ください。産業分野についてでございます。産業政策についてのビジョンや全体像を示すべきとのご意見、あるいは働く場の定義などについてご意見がございました。産業政策の大きな考え方につきましては、一次答申でも小田原の立地を生かした起業、それから内発的な産業形成、ソーシャルビジネス等の新たな概念を盛り込んだらどうかとご意見をいただいているところでございまして、基本構想の地域経済の好循環の部分を修正しまして、ご意見を反映するという考え方でございます。また、施策12の「働く場・働き方」とそれに連なっております詳細施策につきましては、その他のご意見も踏まえて、具体的な記述について、これから検討していきたいというように考えております。

10 ページをご覧ください。環境・エネルギーの分野でございます。施策 20「循環共生」という言葉につきまして、これはあまり一般的ではない、また、この施策にあるごみ関連の詳細施策と、それから次の詳細施策 21「自然環境・環境保全」に入っている美化の関連の詳細施策、これを一つの施策として、まとめた方がいいのではないかというご意見をいただいたところでございます。これにつきましては、ご意見を全面的に反映するという形で、施策をもう一度、組み立て直したいというように考えております。

続いて、11 ページ推進エンジンについてでございます。推進エンジンの 3 項目、行政経営、公民連携・若者女性活躍、デジタルまちづくりについて、行政経営の手段としてのデジタル、公民連携という意味があるので、それぞれが関連している、したがって別々の項目立てとすることについては違和感があるといったご意見、それからデジタルは、行政経営の全てに関連するので、一体として考えるべきとのご意見をいただいたところでございます。推進エンジンのこの 3 項目につきましては、全施策に関連するものでございまして、推進エンジンの 3 項目の間でも相互に関連するという認識に立っております。しかしながら、この関連性を全てこの計画の中に記載していく、表していくということになりますと、少し計画の構成や記述が複雑になるというところもございますので、このような形で体系化をして、記述しているところでございます。推進エンジンのこの 3 項目につきましては、その他の 25 の施策とは位置付けが少々異なるというようなことが分かるような、計画書上での表記を、今後検討してまいりたいと考えております。

それぞれの論点につきましての市の考え方は、今お話したとおりでございますけれども、本日、委員の皆様には、主要な論点として抽出いたしましたこれらの項目につきまして、二次答申に盛り込むべきご意見を、少し念頭に置いていただきながら、幅広くご議論いただければというように考えております。説明は以上でございます。

【出石会長】

ご説明ありがとうございました。それでは、ここから質疑に入ります。質問や意見等、お願いしたいと思いますが、5 つ主要な論点がでました。一つずつ順番に扱っていききたいと思います。オンラインの委員の皆さんも恐縮なんですけど、複数に絡む場合も更に出てくるかもしれません。とりあえずは順に、一つの論点ごとに、質疑を交わしたいと思います。

まず 1 つ目の論点である目標値の設定についてです。こちらにつきまして、ご意見ご質問等がありましたら挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。基本的な部分は、ほぼ審議会が出た意見を踏まえた対応を検討するということになっていたと思います。各目標値に対する意見の説明は今、個々にはできませんけれども、もし確認したい点等があったらお願いしたいと思います。できれば全体的なところからのご発言をお願いしたいと思います。

【奥委員】

最初に確認をさせていただきたいのですけれども、答申のレベル感と言いますか、答申にどれぐらいの、どの程度の内容を盛り込むのかを、少し確認をしておいたほうが良いかなと

思います。今、ご説明のあった参考資料には、できれば答申本文ではないにしても、別添というような形で答申に付けるとか、できれば細かい各目標についてもいろいろ指摘がありましたが、それら全部が見えるような形で答申とセットでお渡しできればいいかなというふうにも思います。答申書に盛り込むレベルがどの程度のものなのか、内容がどの程度のものなのか、そこの想定を共通認識として持っておいたほうが良いかなと思います。

【出石会長】

そうですね。大前提になりますので、答申のイメージについてご回答いただけますか。

【理事・企画部長】

答申に盛り込む内容についてでございますけれども、資料2で申し上げますと、例えば、2ページの目標設定の考え方とか体系の考え方とか検証の考え方、こういうものを答申の内容に盛り込んでいただくようになるのかなと思っています。以下の各目標値、個別の目標値に対するご意見というのは、これは少し答申の内容に盛り込むには細すぎるかなと思いますので、基本的にはそれぞれの、今回論点としていくつかお出ししましたけれども、その全体的な考え方みたいな部分を答申に盛り込んでいただく、そんなイメージでよろしいかなと思います。以上です。

【出石会長】

私の方からもう少し確認させてください。今行政案が出ています。行政案の実行計画なり重点事業なりがありますが、これを審議してきました。それで様々な意見が出てきていますけれども、それを答申としては行政案についてしてきているわけですね。今いくつか、例えば、環境・エネルギー分野については、構成を全面的に変えるという話が、意見を踏まえて反映させるとありましたが、そういうところについての、要はそれは市が総合計画、実行計画を最終的に作るわけですが、我々審議会としての答申の出し方というのは、例えば、行政案のこの部分はこうすべきである、というような出し方になるということでもいいですか。

【理事・企画部長】

まず、実行計画全体に対しての審議会としてのご意見を、まずまとめていただくようになるのかなというふうに思います。さらに個別の内容として、例えば、先ほど申し上げた、今回目標値の設定はこういうふうに考えるべきではないかとか、今おっしゃった環境・エネルギーの分野については、このような組み立てにし直した方がいいのではないか、というようなものを一つ一つ、それは箇条書きのような形で書いていただくようなイメージかなというふうには思っています。まずは、実行計画全体に対してのご評価をいただくというところが、まず、冒頭あるのかな、その上で個別に一つ一つ盛り込む内容があれば、書いていただくということになるのではないかなというふうに思っています。以上です。

【出石会長】

重ねて、もう一度確認します。総合計画に限らずですが、審議会が案を示す場合もあるんです。今回で言えば、行政案を踏まえて審議会案を示して、それを答申にするという場合と、それから行政案は行政案で、今のご回答もそうだと思うんですが、それに対して審議会がこうあるべきだとか、ここはこうした方がいいという意見を出されて、それが答申になって、それを踏まえて、行政案を行政が直す、直すというか、市の案としてそれが議会に出る、後者の考え方でいいですね。

【理事・企画部長】

今、会長がおっしゃった場合ですと、後者のイメージを持っております。以上です。

【出石会長】

分かりました。奥委員どうでしょうか。他の委員も。大体ご理解いただけたでしょうか。

【奥委員】

答申書自体には、一つ一つの細かい内容は盛り込めないにしても、別添というような形で、個々の施策とか取組内容に関するご指摘については入れる、答申書とセットで市長にお渡しするというようなイメージでよろしいですか。別添は考えていないということですか。そこがちょっと分かりませんでした。

【理事・企画部長】

別添という形になるかどうか別として、個別のいろいろなご意見については、答申の中に盛り込んでいただいて構わないと思います。以上です。

【平井委員】

本日のご説明では、こういう論点が示されて、こういう対応を考えています、というような形で、口頭でお話しいただきましたけれども、口頭でお話しいただいた内容が答申に書き込まれるという理解でよろしいのでしょうか。

【企画政策課長】

先ほどご説明した、現時点での市の考え方、こういう形で検討させていただく、こういう形で修正するというのは、答申自体には盛り込まれないというふうに考えます。その前段の、今まさにここで整理した論点の部分が、答申の内容になっていくと考えています。

【平井委員】

分かりました。では、こういうことを考えて実行計画を練ってください、というふうな答申の体になるということですかね。

【企画政策課長】

はい、そのようにご理解いただいて結構でございます。

【出石会長】

ある意味、例えば満額回答的なものが出ているものについては、そのまま我々の意見が出て、それが結果的に、最終案には反映されるってことが確約されているような状態です。だから逆に言えば、それは取り入れられないよと言われたようなものについて、特にご意見を出された委員が、もう一度、ここで確認すると良いと思うんです。

先ほどの推進エンジンについては、説明があったとおり、全てに関わるし、3つのエンジン相互の関連もあるので、どうしても今の書き方は、ある程度維持せざるを得ないという発言があったと思うんです。ただ、書き方は工夫しますよって、検討しますよってあります。その辺りは、そうじゃないよとか、そういう意見があったら出していただけると、さらにここで議論が深まると思います。目標設定についてはよろしいでしょうか。

では、次の項目に移ります。人口シナリオ・移住定住策、こちらについて、ご意見やご質問がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

それでは進めます。産業分野についてです。こちらについて、ご意見やご質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

私から1点、先ほどの説明の中で、新たな概念的な話ですね。これは、関委員から意見が出ていたと思いますけれども、これについて、基本構想を修正するという話があったように聞き取ったんですが、基本構想については既に、一次答申を我々はしているんですけれども、二次答申というのは再度、基本構想まで遡るのか、あるいは、基本構想の修正というのは、どのように最終案へ盛り込んでいく過程ってどういうふうになりますか。

【理事・企画部長】

一次答申で、いろいろ基本構想についてご意見をいただきました。それを踏まえて、基本構想の行政案を、手を入れて、加筆修正などもさせていただいて、この12月定例会で議案として上程をさせていただく予定です。したがって、まだ内部で最終的な修正文案を作っているところでございますので、今日はお示しができませんでしたが、次回、第10回審議会があると思いますが、その時点では基本構想の直した文案について、審議会の方にお示しができるというふうに思っています。以上です。

【出石会長】

分かりました。他、いかがでしょうか。特段、追加のご意見等ございませんか。

【奥委員】

追加というわけではないんですけれども、8ページの取組の視点の中の4つ目、98_6-11

のこちらの指摘については、新しい働き方としてどういう状況を思い描いているのか、その中身をしっかりと描くということについては、これぜひ答申の中に、この産業の考え方に大きく関わる場所ですので、入れていただきたいというふうに思います。以上です。

【出石会長】

ただいまの奥委員のご意見についてどうでしょうか。ご見解、市の方からありますでしょうか。あるいは今の検討状況とか。はい、お願いします。

【経済部長】

経済部長の武井でございます。今のご指摘の部分を踏まえて、しっかりと検討していきたいと、反映していきたいというふうに考えております。以上です。

【出石会長】

はい、反映するという答えでした。他、いかがでしょうか。よろしければ次に行きます。

続いて、環境・エネルギー分野ですね。こちらについて、ご意見等ございましたらお願いします。かなり議論になった部分ですが、結果的に言うと、委員の中で重要な論点が見されたものを、基本的には全面的に反映したいという市の考え方でしたね。それでよろしいでしょうか。細かい点等も含めて。

よろしければ、次、推進エンジンに移ります。こちらについていかがでしょうか。はい、信時委員、お願いします。

【信時委員】

推進エンジンに関しまして、先ほどの、推進エンジンの部分とその他のところは、ちょっとレベルが違うというふうにするって、当然そうすべきだと思うんですが、この対応一覧では、私の意見9番、10番で採用していただいているんですけれども、推進本部を立ち上げましたということでは、多分進まないと思うんです。今後の実行計画にも関わってくると思うんですけれども、立ち上げた後が問題だと思うんです。そこにどういう権限を持たせるのか、具体的に何をするかというようなことが、実は私自身も経験があるのであれなんですけれども、私も横浜市で温暖化対策事業本部というものを作って、市全体でやるということで総務や政策や財政の上に、部署を置いていただいたことがあるんですが、2009年ですけれども、置いたところで全然進まないんです。どういうふうに進まないのかというと、結局、各部局、例えばデジタル化に関しましても、今まで何もやっていないわけじゃなくて、それぞれ部局がそれなりにやっていらっしゃる。その文化と新しく持ってくる文化が、すぐには合わない、技術的にも合わないというようなことが、当然ある。ですから、逆に言うと、「いらんことするな」というふうなことも言われるくらいの話だったものです。特に今回、このちょっと上にするとおっしゃっていたんですが、推進エンジンの部分の3つがあって、これはデジタル化って、デジタル化の別の世界がありますよということではなく、デジタル化は

教育だとか、経済だとか、都市開発だとか、防災、環境、全部関わってくるということをしつかりと認識した上で、それを踏まえた、あるいは公民連携を踏まえた、各部局の政策にしていけないことには、全体的な、いわゆるここで一番言っている行政経営にはならないと思うんですね。

単に部局を作っただけで終わっている、さっきの目標値も実はそうですが、目標値を作るだけではなく、それをどう達成したかが、評価が問題なんです。目標値を作るだけなら、ある意味、その部署のプロであれば作れると思うんです。そうじゃなくて、それを、じゃあどう評価するかということを、この全体の経営にどう反映するかというのが、そのラインがしっかりしていけないと、目標値作りました、終わりました、KPI これこれです、ということで終わってしまったら、経営にならない。民間企業だったら、これ全部数字でいくんですよ。利益でどうのこうのって、全部言えるんですけども、役所の場合はそうはいかないので逆に難しいと思うんですが、そこをしっかりと評価を目標に昇華するという、推進エンジンのところと、デジタルと、それから公民連携、全部の部局でそれを反映した事業をしているのかどうかみたいところが評価の対象になるべきだと思います。今、スーパーシティをトライされていると聞いていますけれども、その辺が見られると思うんです。1個の部局でデジタル化をしてたって全く意味が無いというような見られ方をしますので、ぜひ、その辺をちょっと反映されて、本当に、一つ上の組織というような言い方、少し語弊がありますが、そこが全体をコントロールできるような体制を、しっかり組んでいくというようなことが、この立ち上げた後が問題だと思いますので、ぜひ、その辺を組み入れたような、答申までそこを反映するかどうかですけれども、その後の問題かもしれませんけれども、ぜひ、そこは申し上げておきたいなと思いました。以上です。

【出石会長】

この点は、ぜひ、答申の中にしっかりと盛り込みたいと思います。それで、それこそ、仏作って魂入れずではないですけども、動かなければ全て意味がありませんので、できればそういうようなことを、どうしても言葉にするしかないので、今おっしゃられたように、民間の数値化と KPI はちょっと違うので、そういう意味では、本当は基本構想のところの推進エンジンの所を書くべきことなのかもしれないですけども、いずれにしても、総合計画を動かす中心は職員ですから、認識を持ってもらうような表現を入れてもらうように答申しましょう。そのようにいたします。これについて、市の方でそれでは困るとかってありますか。

【理事・企画部長】

問題はございません。ぜひ盛り込んでいただいて結構でございます。

【出石会長】

分かりました。その他いかがでしょうか。推進エンジンについて。

【ジェフリー委員】

推進エンジンのところで、デジタル化のために、市外の手会社を使うことが想定されますよね。東京の開発会社とか、結局、そういう会社を使ったら、小田原の力がなくなってしまうと思います。デジタル化と言ったら、できれば小田原で開発して、小田原で商談して、そういうサービスを市外に販売できたら一番良いと思う。

2点目は、推進エンジンは幅広くてもいいと思いますけれども、焦点を決めないと、さっき言ったとおり、何も進めない。例えば、物流か観光か教育か、もう少し集中したら、もう少し分かりやすく、企業もちゃんと動きやすいと思っています。

【出石会長】

今のは意見でよろしいでしょうか。実際にできた後の進め方ですね。

【平井委員】

推進エンジンに関わるどころだけではなくてしまうんですが、先日、新しい資本主義の在り方の緊急提言が出まして、地方においてどう DX を進めていくのかに関して、かなり具体的なことが出ておりました。今回の資料でいきますと、最初の目標値の設定のところに戻ってしまうんですが、その検証の考え方で、国の施策に連動した施策の練り直しを進めるという論点を示していただいておりますが、参考資料1の市の対応を見ますと、かなり国の方向性が出た後に、それを検討してからという形で、受け身な体制になっていると考えました。もうある程度方向性が出ているものに関しては、先取的に踏み出していく必要があるのではないかなと思います。総合計画が策定の途中で、随時出てくる施策について、少なくとも、キャッチアップを図っていただきたいなと考えます。これも意見になりますが、最初の検証の考え方については、どういうふうにして対応されるのかというのを、もう少し補足していただければと思いました。すみません、戻ってしまう形になりました。

【出石会長】

目標値の設定のところですね。参考資料2の2ページの目標値の設定の3段目、検証の考え方、特にその2つ目のところですね、今、特におっしゃられたのは、国のキャッチアップ型になると、要するに機動的じゃないってこともあると思うんですが、どうでしょうか。

私からも、ちょっと意見を言わせてもらいますね。総合戦略との関係です。まち・ひと・しごと創生総合戦略、これも今、2期ですけども、国が作り、それを受けて県が作り、それを受けて市が作るという形になっている中で、総合計画と非常に似ているんですが、時期も違ったり、片や KPI 立てて出さないと交付金が得られないこともありますけれども、それとの関係もやはり同じで、国を待たないと作れない、一方でそれが総合計画に影響しないのかというのは、市長、副市長とのご議論かなと思ったんですが、今、ちょうど平井委員から出たのが関連するので付け加えます。まず市の見解いただきましょうか。

【企画政策課副課長】

平井委員の方からお話しいただいた、検証の考え方についてでございます。今回、計画の基本的なスタンスとして、時代の変化が激しい中、社会に的確に対応していくという意味での総合計画ということで、3年スパンで、1期計画を飛ばしていくという前提に立ってございます。その中で、目標値を設定し、進捗を図りながら、計画と言いますと、1回作るとそこで書いてある内容が止まってしまうみたいなのところがございますけれども、機動的に動かしていく方向で来年度以降、検証の機会を総合計画審議会の位置付けも含めて、検討していきたいと考えております。

先ほど信時委員からもご指摘いただきましたけれども、推進エンジンは非常に重要だと、これがどう全庁的に機能していくかということ、どう図っていくかという論点もございましたが、これについては、まだちょっと明確に見えてないところが正直ございます。ここについては、検討を進めていきたいなというふうに思っておりますが、全体進捗を目標値立てながら、もしくは国の動向等なども踏まえながら、修正、実際アクションレベルで修正をかけていくという方向性かなというふうに認識してございます。

2点目の会長の方からお話しいただきました、まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係、もう一つ付け加えさせていただきますと、SDGs 未来都市との関係もでございます。総合計画に合わせる形でまち・ひと・しごと総合戦略、SDGs 未来都市計画の見直しを図っていききたいと思っております。で、それぞれに進捗管理が入ってございます。この辺りをどういう形で整理していくかという、一つは指標を合わせていくという選択肢はあろうと思っておりますけれども、多様な、領域的な SDGs あるいは、まち・ひと・しごとといった命題を踏まえながら、多様な意見を反映させて、実際のアクションに生かしていくという方向性かなというふうに認識はしております。

【出石会長】

3年スパンだから臨機に見直せるということですね。平井委員よろしいでしょうか。

【平井委員】

企画の皆さんはそうお考えかもしれないんですけども、個別の対応を拝見すると、かなり受け身な姿勢になっています。もう少しアンテナを張って、先取りのやっていくということが求められるのかなということだけは、ご意見させていただきます。以上です。

【出石会長】

今の質疑と私の質疑は、次の項目でもやるような形にしましょうかね。全体的な意見交換の部分だろうと思います。推進エンジンについて、他、ご意見等ございますでしょうか。

この後、全体の審議をするんですが、この5項目について聞き落とした、言い残したことはございませんか。よろしいですか。それでは、5つの論点については以上にします。

予定よりも大分早く終わりましたので、次のところを充実できればと思います。

続きまして、市長、副市長との意見交換を含めた計画全体の審議ということに移りたいと思います。これまで議論されてきたこと、あるいはされてこなかったことを含めて、幅広く闊達なご意見をいただければと思います。

【有賀委員】

全体的なことになりますが、先日三の丸ホールで行われました、民児協の全体研修会で、守屋市長の講演を視聴する機会がありました。まさにテーマは、「世界が憧れるまち“小田原”」でした。住み慣れてしまうと本当に忘れがちなんですけれども、小田原の素晴らしい地域資源、歴史や文化や自然環境とか食などを改めて実感することができました。

ただ、以前審議会の方でも出されていたようにと思いますが、小田原は交通の便は良いけれども、観光地への単なる通過圏のイメージが強いということです。基本構想にも、これまで蓄積されてきた市民力は小田原の財産であるとあります。やはり、小田原に住み続ける住民が、まちに誇りとか愛着を感じ、そんなまちへの想いが、小田原の魅力として発信されることが、今後さらに期待されるのかなと思いました。

また、先日意見書にも書かせていただきましたが、第6次計画の推進エンジンとなるデジタル化については、やはりあくまでも住民主体で、一人ひとりが守られていくような、優しい社会の実現のために進めていただけたらと思います。スーパーシティの再案を提出したという掲載がありました。やはり住民サービスを提供する未来都市が、誰にとっても明るくて居心地の良いものであってほしいなと感じました。以上です。

【出石会長】

今のようなご感想等でも構いません。何かご発言があったらお願いしたいと思います。

【益田委員】

この第6次総合計画を市民の方々に示す時に、やはり一番大切なのは、市民の方々がこれを理解して、これから先の小田原がどういうふうな方向に向かっていくのかということ、分かってくれたいこと。今この行政案を、このまま出すか出さないかちょっと分からないですけれども、これ読んでいても、多分、興味をひかれない。この推進エンジンの部分を、やっぱりこう文章で、全体にかかるということは、私たちは分かりましたけれども、このまま文章で書いても絶対市民には伝わらないと思っていて、やっぱり市民に分かりやすく伝える時は、表とか図とか、イラスト化とか、そういうふうにしていくと分かりやすいのではないかと、この、市長が最初に出している2030のロードマップの、この表がちょっと分かりやすいなと思って、こういうふうな感じで、こう全体に推進エンジンが回っていますよみたいなところを書くと、市民の方にも分かりやすいんじゃないかなというのを、ちょっと感じましたので、意見ですが、そういうふうにしていただけるといいなと思います。以上です。

【出石会長】

どうでしょうか。

【理事・企画部長】

益田委員におっしゃっていただいたように、やはり分かっていただく、理解をしていただかないと元も子ありませんから、当然計画書の編集の段階で、ビジュアル的にも分かりやすく、また、図、写真、グラフなど、いろいろと工夫をして挿入していきたいと思います。

【出石会長】

よく、自治体によっては、子ども版なんかも作っていますよね。

【崎田委員】

今の意見に関連してですけれども、本当におっしゃるとおりで、計画が市民と共有されないっていうか、分かってもらえないと意味がないので、一つのアイデアとして、僕が市長時代にやったのは動画を作ったんです。短い動画、ユーチューブ動画ということで、コンセプトを分かりやすく伝えるというところに特化したものを作るとか、シンポジウムをやるっていうのももちろんなんですけれども、ぜひそういったことも参考にしながら、やっぱり一貫して言っているんですけれども、この審議会の中で、総花的に全てを伝えようとするのではなくて、やっぱり1個でも持って帰ってもらう、その1個をある意味絞って、それが推進エンジンは僕も非常に賛成なので、推進エンジンをどう分かりやすく伝えるかということを、ぜひいろいろ工夫をしてほしいなと思います。以上です。

【出石会長】

この辺り、市長、副市長からいかがですか。

【市長】

今、伝える力、伝え方のご議論を、益田委員と崎田委員からお話いただきました。おっしゃるとおりだというふうに思っております。1年半、市長の職にならせていただいて、行政側の考え方を、いかにこの市民と共有することの大切さと、そして、その難しさということをすごく痛感しております。ついつい行政側は、自分たちで分かっているつもりで、市民の皆さんにいろいろなお話をするんですが、そこが、一方通行になりがち。市民がそれを受けた時に、「何言っているんだろう」ということになることが、多々あるというふうにも承知しておりますので、まさしく作って終わりではなくて、どういうふうに進めていくかということが、先ほどの推進エンジンの中で必要なんですけれども、どう市民と共有していくか、そこにはいろいろな技術が必要になって、伝え方の工夫が必要になってくると、まさに思っております。イラストや図や動画という、シンポジウムの開催などのご意見も今、いただきました。イラストの方はもう準備をしているんですよ。先ほど会長からも、子どものイラスト

トというのがありましたけれども、この審議会でご議論いただいたということを踏まえて、小学生、中学生に 100 文字の短いメッセージであるとか、イラストを今、募集しているところでございます。そういうことで、一緒に作っていくっていう共感も作りながら、総合計画と一緒に進めていく、もちろんこの動画ということも、大切な手法だというふうに思っています。いろいろな手法を駆使しながら、ぜひ伝えていきたいと思っています。以上です。

【信時委員】

今の意見に賛成なんです。ただその前に、役所の中で、これは企画部がやっている仕事だということにならないで、各部局の方々も全部自分ごとで話せるようにしてもらいたい。そのために、言いやすい言葉を作るとか、その辺を工夫されたらどうかと思います。

【崎田委員】

すみません、もう一回、アイデアの共有だけということで、僕、実際やってみて効果が高かったのが、日南市で総合計画のコンセプトの 10 代の認知率が 80%を超えているんです。何で 10 代が 80%までいったかという、高校生に総合計画のコンセプトを学習してもらって、年度末に市長に政策提言っていうのをしてもらったんですね。だから、例えば推進エンジンを、自分たちに落とし込んで、自分たちだったらどうやるみたいなことを、学校にやってもらうというのも一つのアイデアじゃないかなというアイデアが 1 個。

細かいアイデアですけども、ステッカーを作って、タクシーとか公共交通機関とかにも貼りまくったんです。まちを通っていると、タクシーにも市のコンセプトが貼ってあるとか、本当に細かい工夫で、それは職員さんたちの、うちの職員のアイデアでいろいろなことをしたので、一応情報提供です。

【出石会長】

ありがとうございます。関連してなんですけれども、私も行政経験があるものですから、どうしても行政職員は固定観念になってしまいますので、先ほどの信時委員の話もそうだと思う、縦割りもそうなんです、むしろそういうアイデアを、今まさに元市長であります崎田委員からもいただきました。そういう固定観念を持っていない方からいろいろと意見をもらったらどうでしょうか。例えば、この審議会、あと 1 回で終わりですけども、せっかく市民委員が入ってるわけですね。若い市民委員も入っているわけです。そういう方から、例えば提言、アピールの仕方ね、宣伝の仕方、あるいは周知の仕方などについて、ご提案をいただくとか、そのようなことを考えたらいかがですか。そういう発想もなかなか出ないんですよ、実はね。せっかく闊達な意見が出ている審議会ですから、委員皆さん、公募委員に限らず、そういう提言をもらったら良いと思います。これも一委員としての意見として申し上げます。

他、どうでしょうか、ご発言ありましたら。

【遠藤委員】

審議会に参加させていただいて、いろいろ考えていく上で、本当に素晴らしい地域なんだというのがよく分かりました。その上で、この実行計画を丁寧に進めていけば、もう一個フェーズが上がった都市、地域になるんだろかなというのを、すごく確信したような審議会と思っています。ぜひ市民への浸透プラス市外への浸透、ブランディングというところをしっかりと考えて実行していきながら、ぜひ若い人たちが小田原に行きたい、小田原を選択する機会が増えるような地域になっていけたらなと思っています。それも若い人たちプラス今住んでいる子どもたちが将来住むところを小田原に選択するっていう機会がたくさんあったら良いと思っています。

【出石会長】

ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

【ジェフリー委員】

「世界が憧れるまち“小田原”」を目指しているところで、海外から見たときに、小田原の注目すべきところはどこにあると思いますか。どこになれる可能性があると思っていますか。

【出石会長】

はい、これも市長お願いします。

【市長】

まさに「世界が憧れるまち」というのは、なぜこの言葉が思いついたかということ、ある意味、私が都市づくりにずっと長く研究もしたり、実践もしたりしてきたということがあって、国内外の都市を見た時に、世界が憧れるまちの要素は、小田原にもう全て揃っているんだろ。と。全て揃っていながら、今、遠藤委員の言葉で、まだまだ上げていくフェーズというものの、まだまだ成長していく過程があるだろうと。

よく言われるんですけれども、世界に実在するまちとしては、例えばどういうまちなんですか。ニューヨークやパリやロンドンなのか、もしくはジュネーブやフランクフルト、ハノイやメルボルンなのか。いろいろな財団とか研究機関が、住みたいまち世界ランキングとか、そういったものもあるというふうに思っています。ここがブランディングというところになると思いますけれども、ブランディングというのは、恐らく様々な要素をどんどんそぎ落としていって、都市のイメージというのがついてくると思うんです。つまり、世界遺産のまちであるとか、もしくは金融のまちであるとか、もしくは歴史みたいな文化、で、ここが今度小田原の魅力の出し方なんですけれども、まさにそれはこれから総合計画を進めていく上で、ある意味、有賀委員のお話にもあったように、世界からも憧れてもらうには、やっぱりここに住んでいる人たちが、まちに誇りを持って、ずっと住み続けたいっていうふうに思っているいただくことはベースにあって、そういう、そこで暮らしている人々の生活を見て、ああ自

分も小田原というまちに興味があって、もし機会があれば住んでみたいし、いる人も、場合によってはもちろん小田原を飛び出す人もいるんですけども、飛び立った方も小田原を忘れることなく、逆にその方たちも、日本中で、世界中で、小田原の良さを発信していいけるようなまちにしていきたい、というのが全体像でございます。

その上で最初の質問に戻った時に、じゃあそうやってそぎ落としていって、こうエッジを効かしてどこに行くかというのは、なかなかここが、ブランディングの難しいところでございますので、まだまだ、それはこれからの大きな課題かなと思います。

【出石会長】

まさにこの審議会で議論されてきたことのとおりですね。世界が憧れるためには、住んでいる人が誇りを持てなければだめだというのは、ここでも出てきた意見です。

ちょっと私の方からせっかくなので、何でも結構ですから感想を述べていただきたいと思いますので、ご指名させていただきますね。佐藤委員いかがですか。

【佐藤委員】

私は、守屋市長に2回ほど質問やインタビューという形で対面させていただいて、その際に「世界が憧れるまち“小田原”」についてお聞きしたんです。今回こうして公募委員として小田原市総合計画の審議会に参加して、実際に、行政がどんな考えで行われているのかというのが垣間見える機会をいただいて、より、今、私が住んでいる小田原がどういうふうに、どんな考えの下、作られていっているとか、守屋市長がおっしゃられていた、「世界が憧れるまち“小田原”」になるための具体的な案というのが知れて、すごいありがたい機会だなと思いました。想像するにとどまっていた理解が、詳しく、実態として分かった機会だなと感じました。私は、これから小田原出身者として社会にも出ていくので、今回の経験とか、そういう考えがあることをちゃんと念頭において、社会人になって、また小田原に帰ってきたいなというふうに思いました。

【出石会長】

ありがとうございます。木村委員、いかがですか。

【木村元委員】

先ほどから、お話が出ているんですけども、やっぱりブランディングという話がありました。小田原らしさということで、今、市長さんも言われましたけれども、私も同感なんですけれども、やっぱり日本全国の方が、小田原市にどういう特色があるまちかっていうことよりも、住んでいる市民が住みやすい、暮らしやすい、そういうことがやっぱり小田原に対する愛着を持ってくるのかなというのが、一番原点にあると思うんです。

そういう意味で、この審議会を今までやってきた中で、先ほども他の委員の方も言われましたけれども、企画部の方々、企画政策課の方々からはすごい熱を感じるんですけども、

他のところの目標値等を見ていると、例えば、消防団員の練習機会の回数を増やすとか、安全とか、防災に関わるのかというところを見ると、それは内部の問題だなというようなことがあったり、あるいは、市民の一番大きな問題は、市民の命、財産を守るという意味で、大きな災害などが一番、起きた時に緊急対応するんですけれども、その時の、これから向こう10年間の訓練というのが、10年間の線表を見ると、全く同じことが書かれているんです。安全についてもそうです。同じことの繰り返しなんです。

今回、まちづくりの推進エンジンでデジタルまちづくり、公民連携、そういうものが絶えず入ってきて、新しいものがどんどん入ってきて、3年経って見直して、うまくいかなければ修正するし、うまくいけばもっとそれを拡大するし、ということが行われればいいんですけれども、そういう小田原でなければできない、小田原らしさとか、市民のことをこれだけ愛情を持って、行政が考えて取り組んでいるという、そういう熱というのが、市民に伝わるような何か新しいものをどんどん入れる。行政は同じことをやれば楽なんですけれども、そうじゃなくて、やはりどんどん改革して革新していく、そういうようなものが市民に見えてくると、ああ汗かいてくれているなということを感じると思うんです。そういうようなことが、この推進エンジンで書かれていたものが、具体的に言葉じゃなくて、行動に表れていくような形のプランができてくると、市民は、ああ、さすがやっぱり小田原変わったなということになって、市民のことを考えてるなということになると思うんです。

そういうことをやることにはやっぱり財政が関わってくる。お金がかかるわけです。私は、県の企画部の関連するこういう会議にも出たり、他の町でも見るんですけれども、すごいなと思ったことが1つだけあるんです。小田原市もやってみたらということなんですけれども、県の企画部の職員は職場に出勤するとすぐ、国の自分の担当する省庁のホームページを見るらしいんです。そこで、財政の面での補助金がどこが出るとか、資料があれば、すぐに見て上司に言うとか、そういうことを言ったりとか、あるいは県西の他の町で、ある程度財政の豊かな町では、例を言うと、小中学校とかそういったところに太陽光発電をつけるという、そういうのが県の方から、国の財政から来て、県に来たらしいです。そういうのをやった時にも、県の方に出したら、他の県西の町ではほとんど出してこないというんです。結局そういうのも全て、副町長からその部署にすぐに連絡が来ている。どこから連絡が来ているかというと、政府が決める前の与党が考えたような政策を近隣出身議員の事務所から情報を得て、そこから政策の文書を書かせて、新聞に載る時には、ある程度素案ができています。国や県の示す期間がすごく短いらしいので、そこから作ると、もう大変らしいですよ。そういうようなことが副町長レベルのところでアンテナを高くして、すぐにその下の部長や課長にすぐ指示を出しているというようなことで、そういうのをパッと出せるというようなことが、国の補助金を県が来て、県から市町村に来るのをすぐ取るというようなことをやっていて、やはり市の各課も毎日、自分の課に関するところを県や国のホームページを見るのを、朝の日課にしているということを聞きました。それで補助金を絶えず獲得しているということを聞きました。やっぱり市だけの税金ではできないので、そういうところの補助金なども、ここにあるデジタルなんて国がこれだけ言っているわけですから、そういうのをうまく使って、

市に合うような形で料理することがすごく大事だと思うので、幹部の方が後ろにいっぱいいられますので、末端の職員までそういう感じで、絶えず市民のためにどうしようかっていうことで、動いてもらえればありがたいなと思います。

【出石会長】

ちょうど今、副町長という話が出ましたので、副市長いかがですかね。

【鳥海副市長】

これまでの議論のように、やっぱり、まちに住む人が楽しいとかワクワク感がないと、なかなか次の段階に進まない。その部分に対して、市の職員も、まずそういった認識がないと進まないという部分は、私も同感でございます。私もいろいろな立場の中で、市外に行った時に、小田原大好きみたいなものを発信していくと、皆、興味を持っていただくという部分がある。そういったものの中は、一つずつ進めていかなくはいけないのかなと思う。

お金の話が今出ました。これは本当におっしゃるとおりで、国のいろいろな施策の中で、それが方向性としていろいろな意見が出る部分はありますけれども、やっぱり我々とする、そういったものはしっかりと早めに情報を取ってやっていくという部分です。逆に、今、小田原の場合は、国の省庁の皆さんからも出向していただいている状況がございまして、逆に、小田原市としてこういう方向に行きたいなというものを、言葉が悪いんですけども、逆に、そういったものを国や県の方に対して、こういった部分であれば市町村としてはやりやすいんだとか、こういった部分になれば市民の方も望んでいる方向だとか、そういったものを、これはなかなか表面立ってPRできませんけれども、そういったものの、土壌や基盤、そういった考えは一定程度、小田原市の職員は持っております。そういったものを別に市民に対して言うというよりも、そういったものはしっかりとやっていく必要がありますので、今日は幹部職員が揃っておりますけれども、やっぱり今、いろいろな情報の部分については、早く情報を取る、逆に小田原市の方の情報を国、県の方にお出ししてうまくできるような、そんなところを本当に好循環にしていくのが大事だと思っていますので、ご提言、本当にそこはおっしゃるとおりだと思います。私共の方もしっかりと対応したいと思います。

【出石会長】

それでは、関委員、どうぞご発言をお願いします。

【関委員】

私はこの3年間、小田原市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の座長、それと国のSDGsの推進評価委員ということで、小田原市のSDGsのご提案は拝見させていただき、進捗チェックもさせていただいているという立場でございます。

今回の審議会に参加させていただいて、1つ思うことは、コロナが終わり始めて、収束が大分見えてきていて、世の中の価値観が相当変わるだろうというように考えています。デジ

タル庁も9月1日にでき、2015年に官民データ活用推進法ができていて、基本的には、自治体の行政の窓口がかなりオンライン化、それとデータの集積、オープンデータのデータ化、そういうところが始まってくると、今までの市役所と、ある意味では、この10年は、全く違う行政のマネジメントが始まってくるんだと思うんですね。

アフターコロナの最初の長期計画ということになりますので、今回の長期計画に関しては、かなり、前の踏襲ではなくて、思い切って。SDGsはご存知のように、先にリードを投げてバックキャストで考えてくれと、後ろから来るもので押されるのではなくて、先の10年をバックキャストで振り返って、逆にマイナス10年目、9年目みたいな形で見たいということですが、実はSDGsでの一番重要な考え方だったんですね。ということになると、今回全体に平たく見れば、非常によく書き込まれてはいるんですが、一番重要な市長の思いですよ、ここだけは外さないで絶対やるみたいなどの、重点施策、それと書きぶりを含めて、何人かの委員がおっしゃったように、市民にもう少しここが重要みたいな、長期計画だと全て重要なんです。ただ、この10年を見れば、やはり一番重要なのは行政改革と、しっかりとした経済政策だと思います。その部分をもう少し強調して、まちづくりの土台を支える部分について、平坦にではなく、凹凸があり、さらに批判があってもやっていくくらいの気持ちがないと、この変革の時を乗り切れないんじゃないかと思います。できれば、そういうふうに書いていただければというふうに思っています。今後の小田原市さんの応援もしておりますし、友人も小田原にたくさん住んでおりますので、しょっちゅう、市民の友人からはミカンがなったよとか、レモンが取れたよとか、あと、かまぼこを送ってもらったりしております。今後とも一緒に進んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【出石会長】

せっかくなので、市長の心構え、特にここはっていうような発言をいただきましょうか。

【市長】

まさに、コロナを踏まえて、2030年をどう描いていくかというのは、この総合計画の大きなテーマで、その作りもバックキャストでいこうと、既に昨年度策定した2030ロードマップにおいても、このバックキャストの考え方を取り入れております。だからこそ、今回の総合計画も三層構造から二層構造にシンプルにして、目標だけは明確なビジョン、2030年の姿は、ある意味、普遍の価値として置いておいて、やり方は先ほど来、ご議論があるように適宜、社会情勢も財政状況も変わっていくので、そこは臨機応変に見直していくという形は取っていかねばならないなと思っています。

まさに関委員の言葉にあった、この市役所自身が果たしてどういう組織になっていくのかということは、これは小田原だけではなくて、大きな社会のあり方になっていくんだろうと。新しい働き方というような言葉も出ていますが、新しい市役所という言葉が、これからどういう社会像になっていくのか、デジタルが進みAIが進んでいって、誰でも機械でできることはどんどんシステムに委ねていく。今、本市には、病院や消防の職員も含めてですけれども

約 2,300 人の職員がいます。先ほどの言葉にあったように、全庁が一丸となって、2,300 人がその方向に進んでいますと言われると、そこは真摯に足元を見なければいけないんだと思っております。だからこそ、この市の、ある意味、職員が職員だけでしかできないことは何なのかということを、そこはきちんと認識しないと、この総合計画はまさに絵に描いた餅になってしまう。本当に細部に宿る一つ一つの行政サービスの向こうには、常に市民がいて、そのサービスの受け手というかパートナーとしてやってく市民が、今どういう状況なのかということを考えなければならない。そこが、対話をし続けていくということが何よりも重要なのではないかなと思っておりますので、この総合計画が来年度からスタートするわけです。そこはぜひ忘れないように、常に内部の振り返りをするような機会も作っていければというふうに思っているところでございます。

その上で、さらに何をやっていくのか、不断の改革をしていく中で、やはり重点施策に掲げた部分ということが、これは大きな柱になっていくのは間違いないと思いますし、先行して既に進めているのが 2030 ロードマップです。そこには 4 つの先導領域を掲げさせていただきました。医療・福祉、教育、企業誘致、企業誘致は別に大企業を呼んでくるのではなくて地域経済の活性化、それから環境・エネルギーというところが、これからまさに「世界が憧れるまち」を作っていく上で、絶対外せない領域を、あえて申し上げるとすれば、そういうところに思いを込めてロードマップを作り、それが今、総合計画の流れになっているということでご理解いただければというふうに思います。

先ほどからあるように、それがきちんと市民と共有できるビジョンに上げていかなければならないなということで、これからも取り組んでいきたいと思っております。以上です。

【関委員】

今みたいなビジョンをいただけると、委員として本当に期待できるなと思います。

【出石会長】

平井委員どうぞ。

【平井委員】

今、市長が、まさにおっしゃっていただいた、市民の皆さんとの対話の一つの方法として、今回大変お世話になりました、市民アンケートの方を取らせていただきました。そちらの方、5 割を超える回収率で、ぜひ内部でも読み込んでいただいて、生かしていただきたいなと思います。特に、気になった点としては、大括りな話として、今まで市が進めてこられて、これからは基盤になるであろう歴史・文化を生かすことや、市民活動を盛んにすることが、市民の皆さんからは満足度は高いんですけれども、重要度としてはそれほどまだ認識されいないということ。一方で、市長もおっしゃっていられた、ここに住み続けていただくということを考えた時に、ちょっと気になるデータとしては、住んでから 1 年ぐらいの方は非常に満足度が高いんですけれども、5 年ぐらい経ってきたあたりから、満足度が急に下がるというの

がありまして、ここは何なのかというところで、やはり木村委員もおっしゃっていられた、安心みたいなところがどうしても出てくる。そうすると、市が進めていこうとする前向きな、先取的な方向性と、暮らしを守っていく、命を守るといったところをどうやって見つけていくのかっていうのが、非常に重要なポイントになるのかなと考えています。

そこで、一つ手掛かりとしては、非常に転居の志向が高い、引っ越したいと思う方たちの不満な点として、選択肢の言葉で言えば、「娯楽や余暇を楽しむ場がない」ということが挙げられています。これは言葉の語弊もあるかもしれないんですけども、一方で、転居志向が高い30代、40代の方は市と協働するということに関して、他の年代の方たちよりも10ポイント以上高く、前向きな意向を示してくださっています。従来の市民活動とか、歴史・文化を生かすといったようなことが、どうしてもボランティアでやらなきゃいけない、何かのためになるっていうふうなことのニュアンスが強かったんじゃないのかなと思ひまして、もう少し、これから市と市民と一緒にやっていくことが、鳥海副市長の言葉にありました、ワクワク感とか、楽しいことなんだと、何か新しいことを切り開くんだっていうような、ある意味、娯楽や余暇として捉えていただけるような、そういう場づくりというのが、これからはますます必要になってくるんじゃないかなと思います。これが実現すると、「娯楽や余暇がないから引っ越したい」という若い世代の気持ちもカバーできるし、市民活動や歴史・文化の重要度が低いという判断も変わってきて、これを生かして、「世界が憧れるまち“小田原”」を実現していく、未来志向のまちを実現していくっていう方向性になっていくんじゃないかなというように考えました。ぜひ、今の市民の皆さんのモヤモヤ感というものを細かく見ていただいて、少しチューンアップしてつなぎ直すと一気に動いていくんだということが、今回の総合計画をきっかけにして動き出すことを期待させていただいております。お役に立つことがあれば、お役に立ちたいと思います。よろしくお願いします。以上です。

【出石会長】

データに基づいた、大変説得力のあるご提案だったと思うんですけども、どうでしょう。市側からコメントありますか。

【市長】

私も最初、あのアンケートの項目を見た時に、こんなにたくさんの項目を出したら、アンケートに答えてくれないんじゃないかという心配があったんですが、予想に反して、たくさんの方があれだけのボリュームのあるアンケートに回答いただき、それだけで小田原の市民の方が、この地域のことを何とかしたい、そして自分の意見を市政に反映してもらいたいという方がそれだけいるということに、本当に嬉しく思いました。今年のアンケートは総合計画策定のためのアンケートですけども、これからいろいろな政策を進捗していく上でも、重要なツールとして、これからも積極的に取り入れていきたいというふうに思っています。

今、30代の方の転居志向等、満足度のお話をいただきましたけれども、まさに小田原は市民活動がすごく、日本でも特筆すべきレベルに活発化しているという現況がございます。それ

は小田原市の特性、特徴であると、胸を張って言えるところだと思いますが、それをどうサステナブルにつなげていくか、一生懸命やるがあまり、義務感があって。やっぱり楽しくないと続かないと思うんです。何かやらなきゃという義務感があって、どんどん下向きになっていくと、周りにこの共感の輪が広がらずに、その人だけがやってしまう。そうではなくて、皆でやっていくっていうことをつなげていくためには、参加する意欲をどう作っていくか、醸成していくかというのが大変大切な視点だというふうに思っております。まだまだそこに明確な解はないんですけれども、まさに今、平井委員のお言葉を聞いて、なるほどなと思ったのが、「娯楽や余暇」というとテーマパークがあって、遊びに行けるみたいなのところがあるんですが、恐らく、小田原を、移住してくる方も増えているんですけれども、私たちから見ると何気ない活動が、つまり海岸を散歩するとか、お堀の前にたたずんで小田原城を眺めるとか、これは娯楽や余暇と捉えるのか、小田原市民はひょっとしたら捉えていないのかもしれませんが、見方によれば、ある意味、最高の娯楽や余暇や時間の使い方なんだということも、改めて感じたところです。私もこの間、朝6時から小田原城でラジオ体操をされている方がたくさんいらっしゃって、一緒にラジオ体操をしてきたんです。あんなに日曜の朝が清々しく迎えられるんだというふうに思うと、ラジオ体操も十分な娯楽だななんて、今、改めて感じているところでございます。そんなことも積極的に、市民が継続できる環境づくりとして、取り組んでいきたいと考えます。ありがとうございました。

【出石会長】

それでは、秋元委員どうぞ。

【秋元委員】

参加させていただきまして、まず思ったことが、本当にこの審議会で決める範囲が広くて、またとても重要な案件ばかりで、これをこの短期間の、この短時間で決めていくことの難しさというのをすごく感じました。私、企業としての代表で参加させていただいていると思ってるんですけれども、これだけの案件を具体的にやっていき、発信をしていくとすれば、それは相当な見せ方も必要ですし、実際やっても、その見せ方がうまくなければやっていないっていうふうになってしまうし、そこがすごい苦しいところなのかなと思いました。

実際、小田原Lエールには、うちも認定していただきまして、小田原Lエールの女性活躍の取組も素晴らしいと思いましたし、また、子どもも私二人いるんですけれども、小学生なんですけれども、非常に育てやすいまちであり、特に文句もないです。本当にただただ恵まれている、二宮金次郎さんから小田原城から、恵まれているとしか思わないので、今あるもので十分発信力っていうものを強化すれば、全然、良いまちであるっていうことは、分かっていることだと思うので、今回参加させていただき、過去からずっと委員の方々が参加している方もいると、言い方は悪いですが、全然進んでないとか、絵に描いた餅になっちゃわないようにみたいな、そういう感じの発言もあったんですけれども、これだけのことをやるとしたら、相当なもの、何て言うんですかね、KPI ではないですが、見せ方とい

うところを今一度、この審議会っていうものの自体の回数とか時間とかも、私にとっては、ちょっと企業だったらありえない工程の進み方だったというのが正直な意見です。

【出石会長】

鈴木委員、何かご感想等ありますか。

【鈴木委員】

いつも思うんですが、こういう計画を市が作って、それを地域に下ろして、一緒に自分たちはやろうとしても、その目的がなかなか地域の人たちには伝わらないで、自治会長さんも、それからいろいろな団体の役員の方も、今一体何を言おうとしたのか、まちづくりって一体どういう形でやったらいいのか。ケアタウンにしても、市の人は、何でも好きなものや必要なものを買ってという形で、お金をよこすことによって、目的が半分達せられたような行動を起こされても、こっちはケアタウンと「なんでも買っていい」がなかなか結びつかなくて、ケアタウンとなると、何か福祉的なことに使うのかしらとか、そういうことの方に地域の何か活動を持っていけばいいのかな、なんて考えることが多かったんです。

今回この審議会に出させていただいて、これを皆さんとやってきた時には、やっぱりこれは、できあがったら、先ほどもありましたように、市の方がどのように地域の方にこれをうまく伝えていくか。早く先に目的を言うてくださった方が地域の人はやりやすいんですね。それに向かって、一緒にやっていくっていう気になりますが、後で実はこうだったんだよって言われても、「ええ、そうだったの、全然方向が反対に私たちやっていたわ」ってことにもなって、恥ずかしい思いもしたんです。だから先ほどもありましたように、工夫して、少しでも地域の人たちに分かってもらった上で、協働でやっていきたいな。私、先ほども平井先生のアンケートなんですけど、私はタッチしなかったんですが、うちの夫がやっています、これはずいぶん質問が多いなという中で、一生懸命、やっぱりね、だんだんね、自分がやっぱり小田原で生まれ育った夫ですので、若い時とか、小さい時の小田原の良さが見えてくるんですね。年を取ってくると現在のことよりもやはり昔の小田原に対して、とても愛着があるという、私も小田原っていい文化人が多かったので、歌一つにしても、いろいろな良い歌が、童謡にしても何にしても、小田原にちなんだ歌があったり、お話があったりして、今の子どもたちにこういうことを伝えていきたいなっていうことをつくづく感じました。

私もとっても勉強になりました。ぜひ、この企画を市民の方に分かりやすく、伝達できるように、ひとつよろしく願いいたします。

【出石会長】

大変重要なご意見だと思うんですね。まさに、市民の方々に通じていないってことのご指摘ですよ。どうでしょうね。なかなか市側じゃ見えない部分かもしれません。

【玉木副市長】

今、鈴木委員から大変重要なお話をいただきまして、私共、市役所の行政を預からせていただいている、一生懸命に目の前の仕事をやることで、市民の方の幸せですとか、市民の方が暮らしやすい、便利なように、少しでもしていきたいというように努力をしているわけなんです。けれども、やはりやっている時に大事なことは、市民の方に市民の目線から見て、それがどういうふうに映ってるのかな、しっかり伝わってるのかな、役立っているのかなという視点がないと、一方的な仕事になってしまうのかなというように思っています

今、お話にあったような、何かお願いする時にも、やはり市だけではもう仕事ができない部分がございます。ぜひ一緒に仕事をしていく、問題の解決にあたっていこうということで、例えばケアタウンの取組ですとか、やらせていただいているんですけれども、そういう時にも、もっと目的ですとか、なぜこの仕事が必要なんだ、なぜこれを市民の方と一緒にやらなければならないんだということは、しっかりお伝えしながら。やってきているつもりなんですけれども、どうも伺いますと、まだちょっと伝わっていない部分もあるというご指摘だと思います。今後、新しい総合計画をつくる形もこういうふうに市民の方と一緒に作っておりますし、進めるにあたりまして、そうした形で市民の方と一緒にやって取り組めるように、取り組んでいくということが必要なのかなというふうに、改めて今、ご意見をいただいていたと思います。また、努力してまいりますので、引き続き、ご意見をいただければと思います。

【出石会長】

公募委員の矢部委員がご発言できるということですので、お願いしたいと思います。

【矢部委員】

自分は、公務員を志望してしまして、その立場としては、この会議は、非常に、市がこういうふうに市民のことを思って、市のために様々な意見を交わして、市のために動いているなっていう感じました。一つ感じたことは、この審議会で決めたことはもちろんあると思うんですけれども、それを実行していく上で、また様々な壁や問題があると思うんですけれども、そういう時にこそ市民の力を借りてほしいなと思います。市民も、自分もそうなんですけれども、本当に市を良くするためだったら何でもしますし、意見も出すので、本当に市で何かをするってなったら、まず市民に声をかけて、手をとって、作り合っていくのが、市の理想であり、小田原市なら、アンケートの結果とか見て思うんですけれども、それが可能だと思うので、その先の小田原市の発展と向上にむけて、自分もその一員となれればと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

【出石会長】

せっかくですので、別所委員いかがでしょうか。

【別所委員】

総合計画の審議会に参加させていただいて、非常に市民と職員の方々が積み重ねてきたものを拝見させていただいて、非常によく作られているなというふうに思っております。いろいろな意見を述べさせていただきましたが、作られてくるプロセスがその前にあって、非常に苦勞されているんだろうというふうに感じました。その上でですけれども、総合計画で住みやすいまちを作っていくことは非常に大事だと思っていて、ぜひ実現していただきたいと思っているんですけれども、多分市民の方々にとっては、自分の住んでいるまちが住みやすいんだというふうに、外でなかなかお話しする機会はないんだと思うんです。住みやすいということは説明しなくても感じていて、それだけで満足してしまっている。逆に言うと、そこを発信していくのは、もしかすると市の方の役割じゃないかなというふうに思っていて、小田原市がこういうまちです、だから住みやすいんですということは、外の方々に向かって、市の方が発信していただけるとありがたいなというふうに思っております。

私は、デジタルの関連で多分呼んでいただいたと思いますので、デジタルの関連を少しお話しさせていただきます。今、ご存知のように、国もデジタル庁を作って頑張っていますけれども、デジタル庁もできたばかりです。国の方も今作っているシステムをどうするのかというところで、方針が明確に全部決まっているわけではないというのは存じ上げています。地方自治体が提供する行政のサービスでも、ぴったりサービスを中心に国がシステムを作るというような話が出たり出なかったりとか、どこまでやってくれるか分からないという中で、おそらく小田原市だけではなくて、基礎自治体の方々が一様に、どこまで待てばいいのだろうと困っているところじゃないかなと思っています。そこは、待つよりも、国と話をしていくとか、それから先取りできるところは市の方で、基礎自治体の方で進めていくというのがあるべき姿かなと思っています。

皆さんに簡単にご説明しておきますと、今、日本の国は 1,700 ぐらいの自治体が同じ法律に基づく手続きをするために、1,700 個、別々にシステムを作っていたんです。それを一つのシステムにしようというのがデジタル庁の動きです。で、1,700 の自治体はそれを使ってくださいというふうに言われているんですけれども、その一つのシステムが、いつできるのかを待たなきゃいけないのか、そこまで市民の方が不便をおかけするのかっていうのが、多分、基礎自治体が持っている課題。そこにいち早く取り組もうというふうにされているんだと思いますので、そこをできるだけ早く取り組んでいただいて、逆に言うと、一つの自治体を作ったものは 1,700 の自治体は使うことができるわけなので、小田原発の行政向けシステムというのができ上がって、それを他の自治体が使うというような世界というのが、できくるとありがたいなと思っています。都市 OS というのは概念的に言われてますけれども、まだこれが都市 OS だっていうのはできていない。ぜひ、小田原っていう名前が付く都市 OS を小田原から作っていただきたい。そういうものが、この総合計画を推進していく中で生まれてきていただいて、行政に根付いていくというふうになるとありがたいなと思っております。

【出石会長】

1 点目の方の、市から市外に発信するっていうのは、一つおもしろい例があって、ある自治体が近隣の自治体の喫茶店とかに、その自治体のコースターを作って配って置いてもらっている。つまり、宣伝を他都市の喫茶店にしてもらっているんです。そのやられた方の自治体からは文句が来たそうですが、でも、そういう戦略もやっている、それがあります。

小田原発の都市 OS については、非常に良い話だなと思います。何かコメントありますか。

【市長】

別所委員、ご指摘のとおりだと思います。おそらく、今までの日本のデジタル化の歩みの中で、大きな反省点が出てきたので、デジタル庁主導の下に行くんだろうというように思います。実際我々が使っているシステムを統一するとなると、逆にそうなった分、地域のカスタマイズができなくて、汎用性がなくなるっていう、ある意味、表裏一体の部分があって、その辺が実際問題として、すごく悩ましい。メール送信一つのシステムをとっても、これは多分、全国自治体の共通の悩みかなと思っています。そこはまさに、おっしゃるように国の動きを待つだけではなくて、国の動きを先取りする、もしくは小田原から国に提案していく、こういったシステムでどうなのかということを、作っていければいいかなと。逆に、どんどんこの数十年のデジタルの歩みというのは、そうやってきたんだろうと、使いやすいサービスが生まれてきて、それが横に広がって行って、そしてそのサービスがアップデートされて行って、バージョンアップされてきたというようなことが、市民にとって違和感なくいろいろなサービスが導入されていることを見ると、振り返ると今の別所委員のご指摘、まさにそのとおりだというふうに思います。本市もスーパーシティへの応募もしております。都市の OS というものを小田原のことも考えながら進めさせていただきたいと思います。

【出石会長】

藤澤委員、いかがですか。県の立場からでもいいですし。

【藤澤委員】

県の立場というよりも、個人として感想を述べさせていただければと思います。

私は、計画づくりに結構長く携わっていて、2030 ロードマップを見た時に、我々実は、手触り感ということをよく言っていて、計画書を触った瞬間に見たいと思うかどうか。最初の何ページ目かで、いかに我々の意図を伝えるのかというようなことを言っています。まさに 2030 ロードマップを触った時に、本当に潔いぐらいにシャープにしたと。で、このまちがどういう方向を目指していくのかという意識、意欲みたいなものを明確に感じることで、すごいなと思ったんです。

総合計画にしてしまいますと法定のものですし、やっぱり全部局を巻き込んで作っていくということで、その中で体系を押し込めていく、非常に苦労されたんだなと思いますけれども、若干そのシャープさが、今見る限り、ただ、イラストありませんし、レイアウトもあり

ませんし、写真もありませんし、図表はありませんので、まだまだこれから作り込んでいくんだと思いますけれども、ぜひ、素晴らしいものを作っていただければと思います。

会議の中でも申し上げたんですけれども、市民に対するもののアプローチ、もちろん市民が好きになってもらって、初めて小田原の価値というものがどんどん上がっていったって、それを外部に発信していくっていう順番なんだろうけれども、外部者にアプローチしていくという視点を、もう少ししっかりとお出しになったら、逆に政策でシティプロモーションをしていくような、小田原こんなまちにしたいんだから来てよっていうようなイメージが、実際あった方がいいのかなというのを一つ感じました。

デジタル化の話も出ましたので、都市 OS を作って、その上に都市機能ですとか、あるいはサービスですとか、レイヤーを重ねていったって、その中でデジタル技術ですとか、実際のデータを活用していこうという取組、これは釈迦に説法だと思いますけれども、その中で私は規制の話をしていただいたんです。規制というのは昔のニーズに沿ってできているので、それが漫然と続いていく、なかなか変えようと声を上げていく人がいなかった、そうしたようなことで、それをちょっと変えていくと、新しいニーズが生まれてきて、それが産業化につながるという、そういう政策を県の方ではしてきたわけなんですけれども、既存の規制の枠組みで物を考えていこうとすると、なかなか新しい政策って出てきづらいのかなと思います。デジタル化に限らず、そういったものをもう少し考えを入れていったらいいのかなと、ただ、元々規制というものは住民のサービスを向上させるためのものですので、順番が逆にならないように、積極的にモデルになるように、小田原版の規制改革モデルみたいなものを少し、打ち出していただけたらと思います。

【出石会長】

では、副会長から。

【木村副会長】

副会長の木村です。私も3代の市長とお付き合いをしてきました。各々、皆さん、癖がありまして。今から思うと、先ほど、行政マンの話も出ていたんですけれども、17年前の市の職員と今の職員を比べると全然違います。昔の行政マンはもう威張っていた。今の人は本当に、誰と会っても挨拶はするし、楽しい役所であるというふうに思っています。

いろいろ話が出て、私もいろいろな委員会に出たり、いろいろ一つにまとめて報告をする、その中でも、皆さんの中から話が出ていたように、市民になかなか思いが伝わらないというか、役所的に言うところ、作ればいいのかっていうふうに思うんですけれども、作ることは作るんだけど、じゃあそれを市民にどういうふうに伝えていくのか、なかなかこの辺が、私も地域の一住民として、かねがね思っているんです。だから、今日委員の皆さんがおっしゃったように、その辺の伝え方が一番、行政側としても大変だろうと思うし、受ける我々としてもなかなか大変だと。だからその辺のところを、どうやっていくのか、この辺が一番大変かと思います。

それと先ほど平井委員がおっしゃったように、満足度の問題が出ているんですけれども、我々も地域でまちづくりを始めて、和気あいあいとやっているんで、やっている人は満足なんです。ところが、なかなか、住民の方に伝わっているのかっていうと、まだ低い。それでやはり、役のなり手がいない。今、我々のところは、小学校のPTAの父兄であったり、中学校のPTAの父兄が終わった時点でまちづくりに引っ張り込んで、それで自治会長を辞めた人も、そのまま、はい、さよならでなく、まちづくりの中に残ってもらっているというような形で、今のところはやっています。別に小田原市がこうやれとかということではなくて、やはり地域の自分、小田原市もいろいろな課題を抱えている、全部が統一的なものではないので、海の近く、山があるところ、農村地帯、やはりいろいろな課題があるので、そういうことがこの審議会の中でも、やはり交通、駅前のところはいいけれども、豊川であったり、向こうへ行くと富士急のバス1本しかないというような形で、それもだんだんお客さんが少ないと、採算が合わない、富士急の方も逃げていくような感じになってくる。だからやはり、小田原市に住みたい、我々は住んでいるからこういうものだってことは分かるんですけれども、他から来て小田原に住んで、1、2年はいいかもしれないけれども5年目になると、先ほどのお話と同じじゃないかなと思うんです。だからこの辺のところを、やはりこれから、この審議会ですっかりこの総合計画を作ったので3年で見直していく、全部ができると僕は思っていないので、やはり3年経って反省をして、また次のステップに進んでいくというような形で、市民の皆さんにも分かる、住民の皆もそれで納得するような小田原市になっていけばいいなというふうに思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

ぜひ、地域住民、市民の皆さんに、陣頭指揮を執りながら。応援はいたしますのでよろしくお願いいたします。以上です。

【渡邊委員】

この審議会の中で、私は十分な役割を果たせなかったと思っています。ただ、このまちにとって、何が必要かということでは、まち全体が、私は大きなテーマパークだと考えていて、その中で楽しく暮らせるまちにする、私の役割としては安心して健康に暮らせることをいかにして、実現させるのかということは、私の役割と思っています。施設としては、小田原市立病院があり、新病院建設という構想がありますけれども、それだけではなくて、医療従事者一人ひとり全体がタッグを組んで、総合計画に具体的に書かれていない内容を含めて、連携してまちづくりを進めていくことが重要だと思っています。

【出石会長】

これもご意見として承るという形でご容赦ください。はい、どうぞ。

【玉木副市長】

今、医療ですとか、病院の話が出ましたので、少しコメントさせていただければと思います。小田原にあって、とてもありがたいことといたしましては、やはり医師会をはじめ、大

変、医療の資源というのがそろっていて、例えば、今回コロナ対応、あるいはワクチン接種におきましても、市の医師会の方は、大変献身的にご尽力いただいたということもございました。ありがとうございました。

今回、市立病院につきましては、少しでも工期を短くしながら造っていかうという工夫をしながら業者選定も行いまして、業者を決めたというふうなことがありまして、いよいよ設計、建設ということが進んでいるわけであります。もちろん重要な必要な医療の資源、施設というものは設けますけれども、加えて、市立病院には地域医療の連携機能を設けまして、医師会をはじめ、地域の医療機関とも連携しながら、全体として医療のニーズに応えていかうというふうなことを目指しております。これをする中で、先ほどこの地域の安心・安全ということがありましたけれども、少しでも、24時間365日救急をしっかりと支えることをはじめ、そうしたニーズに応えていきたいというふうに思っておりますので、その点につきましても、総合計画を通して取り組んでいきたいと思っております。

【出石会長】

全員発言していただいたと思いますので、最後に私から、一言、二言、申し上げます。

何度もこの議論でも出てきましたけれども、総合計画というのは、あくまでも手段であって、作ることが目的ではありません。しかしながら、名前のとおり、総合的に小田原市を運営していくために必要なものだという理解でいいと思うんですね。ですので、役所としては、総合計画に従って、予算立てもしていくと思うんです。それは役所にとっては、まさにこれがバイブルになると思います。

しかし市民にとっては、総合計画、先ほど分かりやすい説明云々がありましたが、総合計画全てを知るなんてことはありえないんです。「世界が憧れるまち」だけでも覚えてもらえば十分じゃないかと思います。市民にとっては現在の TRY プランの内容を知っている市民がどれだけいるかという、そうはいないわけです。それはそれでいいと思うんです。ですから、逆に市民向けには、総合計画があるからということを、大義名分というか、錦の御旗にして何か事業を行うのではなくて、やっぱり、先ほど来ある話というのは、全て個別事業の話だと思うんですね。市民に対しては。理解をしてもらうのは。個別の政策、施策、事業について、しっかりと総合計画の裏打ちがある中で、丁寧に市民に説明をして、市民参加を図って、協働して進めていくということだと思います。その点、今のは会長としての立場かなと思いますが、そのようにお話ししておきます。

最後にもう一点だけ、若者・女性活躍については、この審議会でも議論になりました。特定するのがいいのかどうか、それは最終的に市の判断でいいんですが、やはり気になるのは女性活躍ですね。今日ここに全部長がいて、女性は何人いらっしゃいますか。2人か3人ですかね。やはり、圧倒的に少ないです。女性については、私も大学教員をやっていて、あるいは、いろいろと役所関係を見ても分かるんですが、大体、大学の成績の上位はほとんど女性なんですね。東大はほとんど女性になるんですよ。それから、多分小田原市もそうだと思うんですが、採用試験の上位は皆女性なんです。女性は優秀なんです。M字カーブ等の指

摘はありますが、やはり差別、逆差別とかそういうことではなく、普通にまっとうにいけば、本来は、五分五分の女性男性の割合なんだし、あえて政策的に女性を登用する必要もあると思うんですが、やはり「先ず隗より始めよ」ではないですが、こういう統合計画に掲げる以上は、まず、小田原市で女性が幹部として活躍できるというのは、すぐく目に見えることだと思います。これについてはご期待申し上げたいというふうに思います。

私からは以上ですが何か言い残している委員の方いらっしゃいますか。次回また、最終的な総合計画の二次答申の議論をいたしますが、今日は市長、副市長お越しいただいた中で、良い意見交換ができたのではないかというふうに思いますので、この点については、以上で終わりたいと思います。

2 議事 (2) その他

【出石会長】

最後に、議題の(2)その他についてですが、委員の皆さんから何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。せっかくですから、市長から一言、最後にいただけますでしょうか。

【市長】

改めまして、委員の皆様、お忙しい中、熱心に本市の総合計画の作成に向けてのご議論をいただいたこと、心から感謝申し上げます。

私も冒頭に、諮問させていただいて以降、一次答申も先日受け止めをさせていただきまし、また皆様方のご議論については、職員の方から適宜伺っていて、本当に熱心に多方面に渡ってご議論いただいて、というふうに伺っております。本当にありがとうございます。

この今回の総合計画を、これだけのボリュームのものを、こんなに短期間でできるのかということが、最初のスタートの戸惑いでもありました。しかし、そこは計画に時間をかけるよりも動き出すスピード感を大切にしたいという思いで、大変タイトな日程の中を、今回ズームというオンラインの機能も使いながらということで、多くの委員に、まさに北から南から、多くの委員に参加していただいたことも、今回の総合計画審議会の特徴の一つじゃないのかなと思っております。さらに加えて言えば、今日もそうですけれども、この会議の様子は、オンラインで生配信をしているという、まさにこれは開かれた市政を象徴する会議だというように思います。その分、会の運営においては、会長、副会長には様々なご配慮いただいたかと思いますが、こういった議論がこの小田原市の中で行われているということ自身を、一つ我々も大きな糧としながら、そして皆様方いただいた意見をしっかりと踏まえて、これからのご議論をいただいて、そしてまたその答申をいただいた後に、しっかりとした形に総合計画をスタートしていく。そこで先ほど来、お話も出ているように、いかに市民に分かりやすく伝えていくか、そして市民との関係性というの、また一つステージが上がらなければいけないのかなと、いろいろな意味でコミュニケーションを取っていますけれども、先ほど少し、市が言っていることが分からないというのは、我々ももっと勇気を持って、もう

一步踏み込むという、場合によっては、ちょっとそれがおしつけがましいという印象があって、少し、職員によっては、引いてしまうのかと思いますが、多分それは、市民との関係性、距離感がどんどん近くなっていけば、もっと腹割って、もっと本音で、いろいろなことができていく、まさに総合計画は、そういうものの積み重ねの上にあるというふうに思っておりますので、ぜひ、これからも様々な形で、皆様からご指導いただきたいというふうに思います。本当にありがとうございます。

【出石会長】

ありがとうございました。その他、事務局から何かご連絡等ございますか。

【企画政策課主事】

まず、次回の会議についての連絡です。次回は12月9日木曜日、時間は午後2時から4時となっております。少し期間が開きます。議題は、二次答申に関する協議になります。そして、本日扱った計画全般に関する意見をまた、書面の方で受け付けをさせていただきます。期限は、来週月曜日、11月15日までを期限とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上になります。

【出石会長】

それでは、本日予定しておりました議事については、全て終了いたしました。これにて、審議会を終了いたします。皆様どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

上記の内容に相違ないことを確認します。

小田原市総合計画審議会会長

出石 稔